

女と男、もっとわかりあうために

かれんと

No.16

2000.3.25

Current:カレント
—時代の流れあるいは
新しい潮流—

現代家庭考



—自由にお話ししませんか—

今回は、鹿沼市女性団体連絡協議会の開催した今年度の地区別懇談会に参加された中から4人に、ビデオ「現代家庭考」視聴後、家族や家庭、地域社会とのかかわり方などについて、話し合いをしていただきました。(本年度地区別懇談会の写真を掲載しました)



ビデオ「現代家庭考」

これから結婚しようとする若い男女を軸に、親世代・高齢世代との意識の違い・行動の差などから、家庭での性別役割分業・高齢者介護などについて問題提起をしている。

結婚や家族に対する考えは？

塩入 現代では、結婚や家族に対する意識や考えがずいぶん変わってきていると思います。日ごろお感じになっていいることはありますか？

田口 ビデオの家族は、模範的な家族像だと思いました。結婚生活で夫婦が協力していくのは大切なことだと思います。

しかし、現実は大変だと思います。子供ができて、共働きをして、ということになると、むしろ難しいことかもしれません。

石川 結婚するにあたって、お互いの将来について話し合うのはよいことだと思います。私自身は、介護などについては話し合ったことはなかったので、考えなくてはならないと思いました。家族の中では、お互い助け合えるのが当然だと思っています。今、妻がケガをしていますので、食事の支度や洗濯など手伝っています。親と同居ではありませんが、子供たちの好みは別なので、女房に教えられながらですけれど(笑)。

田村 4世代同居の8人家族で、イチゴ農家です。妻は農業もしているので、夫婦で協力していかないとうまくいきません。妻任せではなく、自分のこ

とは自分でという考えです。

子供のオムツ替えやお風呂の世話など当然のこととしてやってきました。若い世代の男性は、ずいぶん家事をやっていると思います。ただ、世代によって、考え方が違うことは感じています。家族の中で考えが違っていると、大変なこともあります。助けることも多いですね。

西村 親世代と同じ敷地内に住んでいます。子供は男の子3人です。

ビデオの中で、夫婦が相手をお願いしている様子がすばらしいと思いました。お互いを立てています。

若い人たちは、同じ価値観で結婚する人が多いと思います。働き続けたい女性は、それを認める男性を選んでいるでしょうし、お互い相手を認めあえば理想的です。

私は子供が好きなので、なるべく子供と遊ぶようにしています。また、子供たちには仕事を割り振って分担させています。

斎藤 仕事と家庭生活、地域活動はどうなっていますか。

また、奥さまは何か活動されていますか。

石川 うちの農業なので、子供が後をついでくれればと思っています。そして、子供が大きくな

座談会出席者(50音順)

- 石川 通夫さん(45歳) 石川小学校PTA会長
- 田口 武男さん(70歳) 府所町日の出会副会長
- 田村 正さん(33歳) 鹿沼市消防団第3分団分団長
- 西村 交平さん(37歳) 鹿沼青年会議所直前理事長

かれんと編集員(板橋・斎藤・塩入・関口)



なったら、もっと地域参加もしていきたいと思っています。

現在はPTAの会長をしていますので、学校・自治会の活動を周りの人の協力を得て、やっています。

田村 農業をしていると、人の付き合いや広い交流が少なくなりがちです。消防団の分団長として活動することで、面識が広がり、やっつけてよかったと思っています。現在は団の活動が中心ですが、仕事だけでなくボランティアなどしながら、仲間を作ることも考えたいと思います。

西村 「明るい豊かな街づくり」を考える団体、青年会議所に所属しています。次世代の子供たちには残したいものがあります。今は仕事優先になりがちですが、子供と一緒に何かやりたいと思います。子供に恥じない生き方をしたいと思っています。

田口 人生も3分の2を過ぎ、残る人生を有意義に過ごしたいと思っています。高齢者も家に閉じこもらず、外に出ているいろいろな人と話し合うことが必要です。80、90歳になっても若い人に迷惑をかけないこと、ボランティア活動することが大切だと思います。

府所町の老人会は、会長を中心に「仲良く楽しく平等に」という方針なので、会員が増えています。自治会長も集会所を作るなど力を入れてくれています。女性が60%、男性は40%くらいの割合で、夫婦会員も34人います。私も夫婦で活動しています。

関口 田口さんの所属している老人会の活動は、女性も男性も、積極的に老後を生き生きと暮らそうとする姿勢が素晴らしいと思います。

かつての日本の女性は、「親に従い、夫に従い、子に従う」という教育を受け、男性は妻や母親に身の回りのことをやってもらえないという依存関係の中で、自立できず、寝たきりになってしまっているという土壌があったと思います。

西村 鹿沼青年会議所は今のところ女性会員は1人です。県外には女性理事長もいます。妻は幼稚園の役員をしています。私が会合などで外出が多いため、家をあけることがむずかしいこともあります。

田村 消防団の活動は、婦人防火クラブなどとの交流や自治会との会合もあり、自分だけ出かけているようで家では肩身がせまいです(笑)。妻は若妻会に入っています。が、視野が広がるのでいろいろ

参加したいと思っています。私も活動してほしいと思っていますが、子供が小さいので、なかなかできないですね。関口 私も自身も小さな子供がいるときは、社会活動・地域参加ができず、いらいらしていた時がありました。

子育てについて

斎藤 3歳までは母親が子育てすべきだという「3歳児神話」についてどう思いますか。

田口 それはだいたい昔のことじゃないですか。私も共働きだったので、うちの子も早くから幼稚園に入れました。零歳から保育園に預けるのも、今の若い人たちは当然と考えているのではないのでしょうか。

共働きしていると、お互いに協力し合わないといけませんね。私も子供をおぶって、買い物カゴを下げて、ちよつと恥ずかしいような時もありました。

西村 3歳までは必要ないと思うんですけど、6カ月くらいまではお母さんが必要ではないでしょうか。できれば母乳で育てたほうがいいでしょうし、お父さんでもいいでしょうが、身近な人がきちんと育児することが必要ですよ。

うちでは、上2人に手がかかる3番日はほったらかしでしたが、この子が一番手がかからなくて、おりこうです。あまり手をかけ過ぎない方が、いいんじゃないかと思っています。

石川 うちの場合、夜泣きや夜中のミルクなど、女房は苦労しましたね。

女房にも言われたし、自分もやらなきゃ悪いと思って1回やると、だんだん慣らされてきますね。

塩入 男性は言われないと分からないというところ、ありますよね。

石川 そうですね。言ってもらわないと分からないですね。

西村 言ってもらった方がいいですね。子供が夜泣きしても、男の人は目が覚めなかったり。

塩入 責任感の問題かもしれませんが、母親の責任感が強くて、父親の出る幕がない？





西村 そうですね、自分の仕事じゃないというか…。

田口 確かに、共働きの場合は女性は仕事と家事・育児と両方ですからね。よほど男性の協力が無いと無理ですよ。

うちは年子でしたので、よけい大変でした。

塩入 自営の場合、サラリーマンのような時間の区切りがないからどうなってますか。

石川 食事時は早めにあがっていいよと言っているんですが、仕事に夢中になっちゃうとどうしても、ぎりぎりになってしま

い、女房は大変です。

塩入 家事というのは、無報酬で限りがないし、大事なことに評価がなかなか得られない。毎日毎日のことだから、担当する人は大変ですよ。

石川 「家事労働を給料に換算すると」なんて話も聞きますが、農家の場合、女房に給料払いきれないんじゃないかな。主婦の労働は8時間労働じゃないですし、食事だっただけで作るのでなく栄養のことまで考えてとなると、男はどうも…。

塩入 お金に換算するより、みんな分担していくことがよいのではないのでしょうか。

妻が病気になったり、一人暮らしになった時、男性に家事能力があるとなんでは、ずいぶん違うと思います。

お子さんに家事をさせることについては、どう思いますか。

石川 いいことだと思います。うちでもやらせています。私も女房が都合が悪い時はやりませう。子供も学校から帰ってきてお腹が空いていたら、チャーハンやラーメン作って食べてますね。

関口 中学1年の息子の家庭科の宿題で、何か一品料理して家族に食べてもらうというのがありました。ハンバーグを作ったのですが、おいしくて、本人も大

満足でした。男の子もどんどん家事をやるべきだと思います。

高齢者介護については？

齋藤 高齢社会を迎えて、介護の問題についてどのようにお考えですか。

先程のビデオにありますが、だれが看るのか、だれに看てほしいのか…。

田口 やっぱり40数年来のつれあいですから、第一希望として家内に看てほしいと思います。その前に私が妻を介護するようになるかもしれないよ。その時は私がもちろんやります。

介護はする人も、される人も大変だと思います。精神的にも、経済的にも。1年ぐらいならともかく長いことじゃ、とても…。願望としては、私が先で、家内が後というのが理想ではあるのですが、だれにもお世話にならないで終わってくれればいいなと思っています。

齋藤 本当にそうですね。みなさんは、どのように考えていますか。

西村 家庭の中でだれか一人が看るのではなく、家族全員で、みんなで看ることが理想です。それが子供たちの勉強にもなると思いますし。公的サービスを利用するのも大切なことだと思います。

います。

しかし、何でも公的なことに頼っていては将来的に財政も厳しくなるでしょうし、ボランティア制度のようなものを充実させるのも必要だと思います。

田村 うちの場合、家族みんなで見ようになるかなと思います。問題が深刻にならないと、なかなか考えられないですが。

石川 介護についてはまだはつきりした形では浮かんできません。私の祖父は92歳で亡くなったのですが、亡くなる前日まで晩酌して、次の日亡くなったんです。だれの手もわずらわせず、理想的と思っていますが。

齋藤 家族だけで看るのではなく、公的サービスで専門的な介護を受けるのも大切ですね。

世間体を気にして、デイサービスなどを受けるのをためらっていたご家庭がありました。介護する側が具合悪くなってしまうんです。家族で話し合っ、思い切ってサービスを受けたら、本人も気持ちよく入浴でき、介護者も心身ともに余裕を持てるようになり、みんなが喜ぶ結果になりました。

田口 介護している人がまいるか、されている人がまいるかというところになりがちですね。介護している人が先に病院行きになったりする。



齋藤 ぎりぎりのところをやっているんですね。介護については、健康な時から家族みんなで話し合っておくといいですね。

田口 私ぐらいの時に話しておくといいいですね。

塩入 昨年、男女共同参画社会基本法が制定され、女性も男性もいろいろな分野に参加・参画していくことが基本方針として定められました。

私たちの身近な職場や家庭、地域社会にも、男女共同参画社会基本法を活かしていきたいと思っています。本日はお忙しい中、いろいろご意見をいただき、ありがとうございました。

REPORT

— 栃木県 女性の海外研修に参加して —

「市民パワーの風」にふれて

小太刀 見代子

「男女共同参画社会基本法」が成立した記念すべき年に、民主主義の原点の国、ヨーロッパへ「自分らしく生きるために」をメインテーマに研修してまいりました。

フランスでのホームステイでは、食糧自給率100%の国の気候風土を基にした衣食住文化を、そして各施設研修では、NGO施設等市民活動が出発で政府を動かしているシステムを学びました。イギリスでは、自由の中にも自己責任と義務が含まれていることをテーマ別研修等で学びました。

かけ足での研修でしたが、学んできたことを基に、理想は高く、活動は足元から、ステキなミストラルの風(地中海の風)が吹き抜けるような人生を目標にしていきたいと思います。

パワフルな女性たちに接して

大塚 美津子

訪問国のイギリス・フランスでは、公共施設の受付や案内の仕事には高齢の女性の姿が多く見られました。

マルセイユの「女性市民社会連合」は、フランス国内に22の支部を持ち、あらゆる女性問題に関する支援・情報提供等を行っております。ここでも年を感じさせないパワフルな女性が会長として熱く対応してくださいました。

私の所属する会では、「もう世話になる年だから…」とやめてしまう人がいますが、元気なうちは周りを支え、弱くなったら支えてもらう、そんな福祉の循環型社会を作るために力を出し合っていきたいものです。

今回の研修では、当然のように活動している女性たちの姿が、とてもまぶしく見えました。

INFORMATION

— お 知 ら せ —

第15回地区別懇談会開催

鹿沼市女性団体連絡協議会が中心となり、昨年10～11月に市内6地区で地区別懇談会が開かれました。「女と男 自分らしい生き方」をテーマに、啓発ビデオを視聴後、グループに分かれて話し合いを行いました。

性別役割分業にとらわれず、自分らしく生き生きと暮らせる社会や家庭のありかたについて、率直な意見交換ができました。

今回は、青年会議所・PTA・老人会などの団体の協力も得て、新しい参加者も多く、充実した懇談会となりました。

私もひとこと入選

性別にとらわれない生き方を考える「私もひとこと」について次の方々を入選とし、記念品を送付いたします。ご応募ありがとうございました。

「これから」

小太刀美恵子さん(西鹿沼町)

「自分らしい生き方を考える」

山木春枝さん(仁神堂町)

「人はこころ」

小嶋チイさん(奈佐原町)

「私もひとこと」

岡本チヨ子さん(千渡)

男女共同参画社会に関する市民意識調査実施

鹿沼市では、女性も男性も共に自立し、一人ひとりの個性と能力を尊重し、だれもが生きやすい社会の実現をめざして、さまざまな取り組みを進めています。

昨年10月、女性施策を進める上で参考とさせていただくために、市内に住む20歳以上の人を対象にアンケート調査を実施し、75人から回答をいただきました。

調査によると、「女性だけが高齢者の介護をになわないようにしなければならない」という考えに、女性の81・1%・男性の77・2%が、「父親も家事・育児等に参加すべきである」という考えには、女性の86・9%・男性の77・2%が「賛成する」と答えています。

現実には、主に女性が家事・育児を分担していると回答した割合が67・9%となり、男性の家事・育児への参加はまだまだ不十分といえそうです。

女性問題は人権問題であるという認識をふまえて、今後の施策にこの調査結果を活かしていきたいと考えております。

調査にご協力いただき、ありがとうございました。

POSTSCRIPT

— 編集員から —

ひとくちメモ

男女共同参画社会とは

「男女共同参画社会」とは、男女が対等な立場で、あらゆる分野での活動に参画する機会が確保され、共に利益を享受し、責任をなう社会です。女性も男性も、一人ひとりの個性と能力が尊重され、だれもが生きやすい社会をめざして、意識の改革や行動を起こすことがもたらわれています。



編集後記

編集員となつて、座談会は初めての経験でした。出席者も最初は緊張されていた様でしたが、次第に話も弾み、だんだんと本音(?)が。さまざまな立場で活躍されている男性に直接お話が聞けて、大変参考になりました。

ボランティア編集員募集

「かれんと」はみなさんとともに作る女性情報紙です。あなたも、ボランティア編集員になりませんか。

ご応募お問い合わせは女性係
☎(63)2232まで。